

ヤングケアラー実態調査 報告書

2024 年 3 月

豊岡市

I 調査概要

1 調査の目的

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている「ヤングケアラー」の実態をより正確に把握し、ヤングケアラーを早期発見し、適切な支援につなぐ方策、相談窓口のあり方等を検討するため、市立の小中学生に対し、学校や家庭での生活実態や家族の世話の状況などについてアンケート調査を行った。

2 調査方法等

(1) 調査期間

2023 年 8 月 28 日～9 月 30 日

(2) 調査方法

児童生徒本人が学校で使用しているタブレット端末から無記名式の WEB 上アンケートに回答

(3) 調査対象及び回答状況

市立小中学校に通う小学校 5 年生から中学校 3 年生までの児童生徒を対象に実施

対象区分	対象校数	対象人数	回答数	回答率
小学生（5・6 年）	23 校	1,381 人	1,308 人	94.7%
中学生（全学年）	9 校	2,019 人	1,694 人	83.9%
合 計	32 校	3,400 人	3,002 人	88.3%

※対象人数は、2023 年 4 月 9 日時点

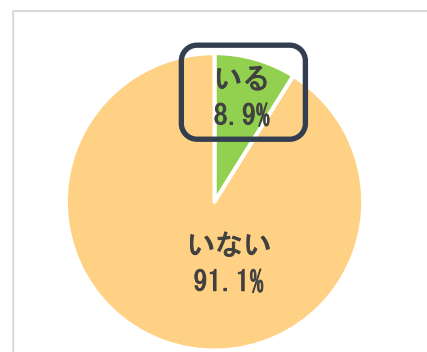
Ⅱ 調査結果の概要

1 家庭内で世話をしている家族の状況について

(1) 世話をしている家族の有無

家庭内であなたが世話をしている家族がいるかどうかについて、「いる」と回答したのは、回答者全体で8.9%（小学生9.8%、中学生8.2%）となっている。

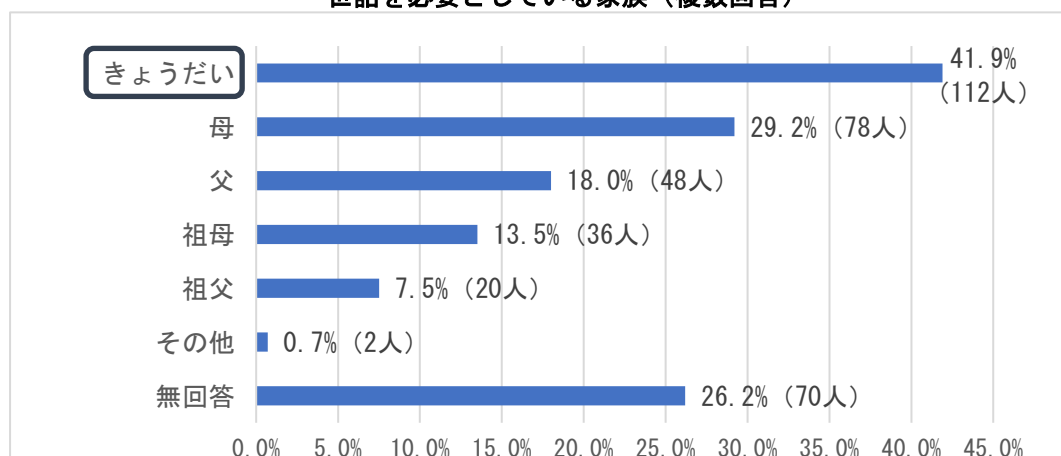
区分	回答数	いる	いない
小学生 (5・6年)	1,308人	128人 9.8%	1,180人 90.2%
中学生 (全学年)	1,694人	139人 8.2%	1,555人 91.8%
全 体	3,002人	267人 8.9%	2,735人 91.1%



(2) 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が41.9%と最も高く、次いで「母」が29.2%となっている。

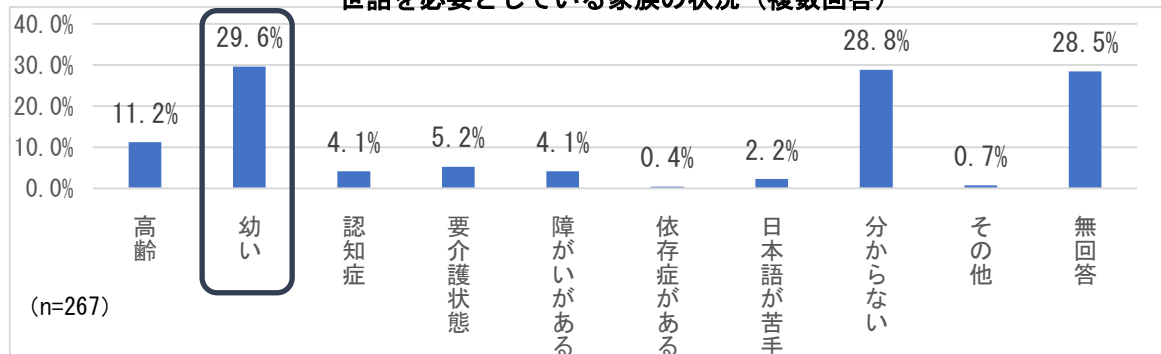
世話を必要としている家族（複数回答）



(3) 世話を必要としている家族の状況

世話がが必要な理由として、「若い」が29.6%と最も高く、次いで「高齢」が11.2%となっている。

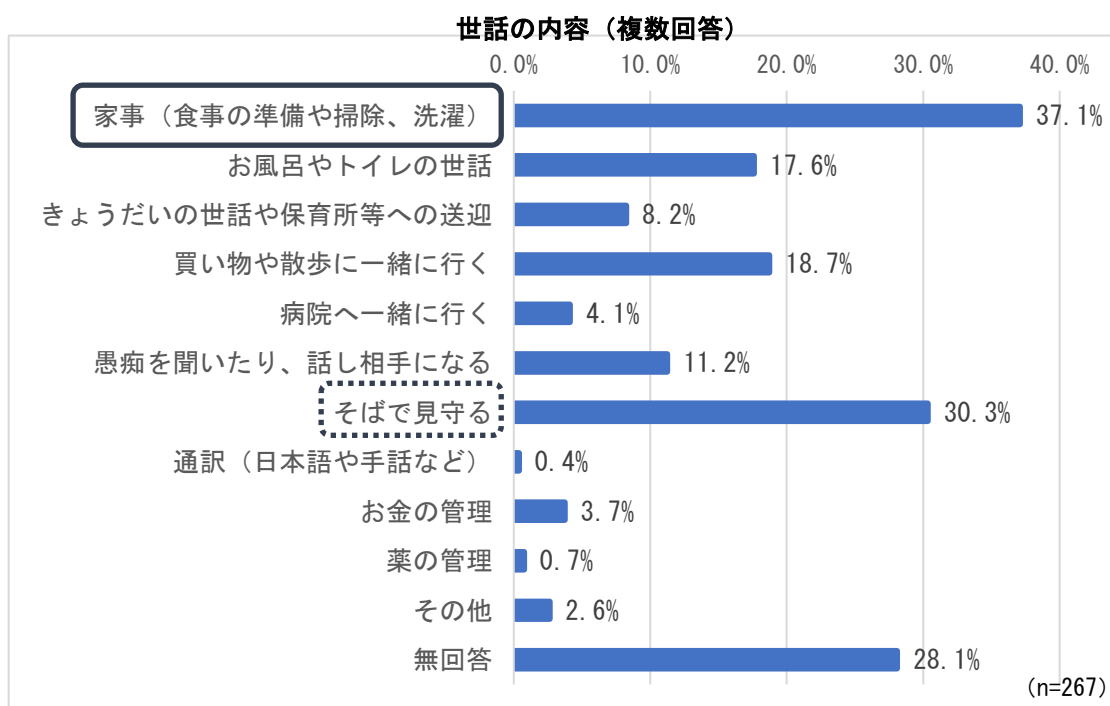
世話を必要としている家族の状況（複数回答）



2 世話の内容等について

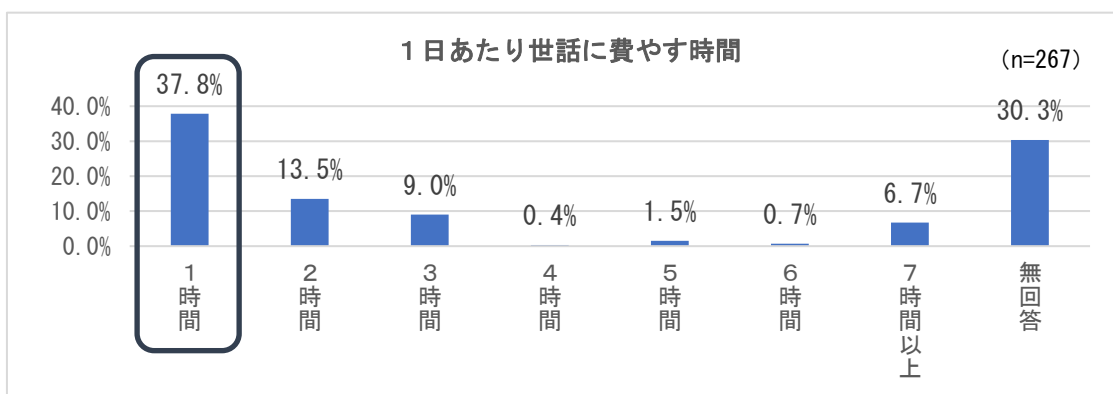
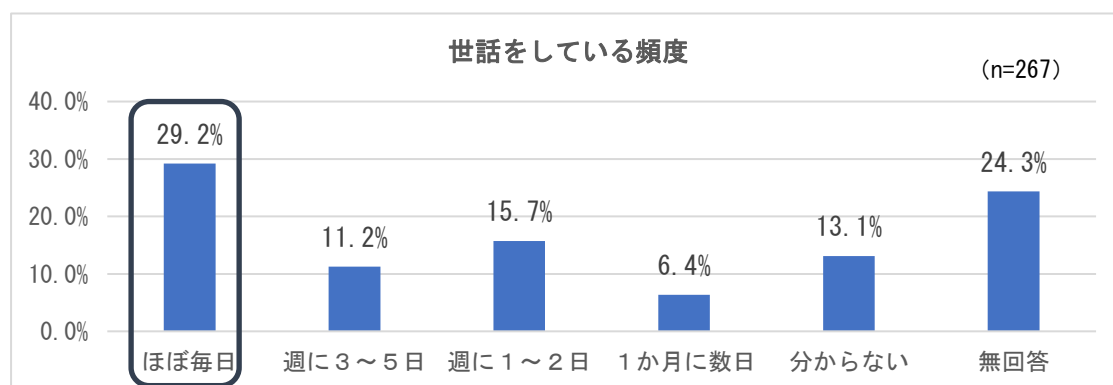
(1) 行っている世話の内容

世話の内容については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 37.1%と最も高く、次いで「そばで見守る」が 30.3%、「買い物や散歩に一緒に行く」が 18.7%となっている。

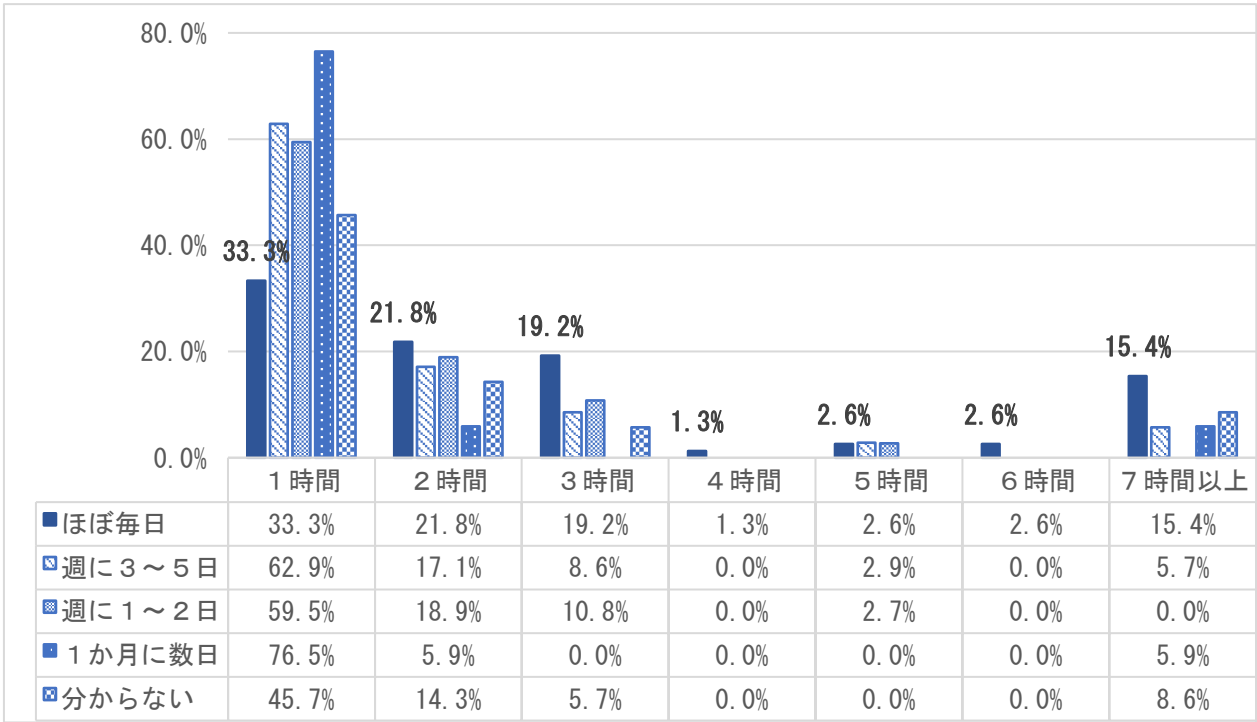


(2) 世話の頻度、世話に費やす時間

世話の頻度では、「ほぼ毎日」世話を行っているのが 29.2%と最も高く、世話に費やす時間は「1 時間」が 37.8%と最も高くなっている。



1日あたりの世話に費やす時間ごとに世話の頻度の状況をみると、どの頻度も「1時間」が最も高くなっている。また、ほぼ毎日世話をしている場合、1時間から3時間までの割合が高かったほか、7時間以上の割合も15.4%と高くなっている。



世話に費やす時間が3時間未満の場合は、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の世話が最も高いが、7時間以上の場合は「そばで見守る」世話が最も高く、次いで「買い物や散歩に一緒に行く」となっている。

世話に費やす時間と世話の内容（複数回答）※一部抜粋

区分		回答数 (n=)	除、家事 (食事の準備や掃 濯)	お風呂やトイレの世話	きょうだいの世話や保 育所等への送迎	行く 買い物や散歩に一緒に	病院へ一緒に行く	手になる 愚痴を聞いたり、話相	そばで見守る	通訳（日本語や手話な ど）	お金の管理・薬の管理	無回答
3時間未満	小学生 (5.6年)	67	33人 49.3%	16人 23.9%	6人 9.0%	16人 23.9%	3人 4.5%	8人 11.9%	19人 28.4%	1人 1.5%	5人 7.5%	5人 7.5%
	中学生 (全学年)	70	37人 52.9%	16人 22.9%	2人 2.9%	13人 18.6%	4人 5.7%	9人 12.9%	31人 44.3%	0人 0%	5人 7.1%	1人 1.4%
	全体	137	70人 51.1%	32人 23.4%	8人 5.8%	29人 21.2%	7人 5.1%	17人 12.4%	50人 36.5%	1人 0.7%	10人 7.3%	6人 4.4%
7時間以上	小学生 (5.6年)	9	3人 33.3%	4人 44.4%	3人 33.3%	3人 33.3%	2人 22.2%	1人 11.1%	7人 77.8%	0人 0%	0人 0%	0人 0%
	中学生 (全学年)	9	3人 33.3%	0人 0%	2人 22.2%	4人 44.4%	0人 0%	4人 44.4%	6人 66.7%	0人 0%	1人 11.1%	0人 0%
	全体	18	6人 33.3%	4人 22.2%	5人 27.8%	7人 38.9%	2人 11.1%	5人 27.8%	13人 72.2%	0人 0%	1人 5.6%	0人 0%

3 世話による影響

(1) 世話による日常生活への影響

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについては、「特にない」が全体で 61.8%と最も高いが、その他では、「自分の時間が取れない」が全体で 9.4%と最も高くなっている。

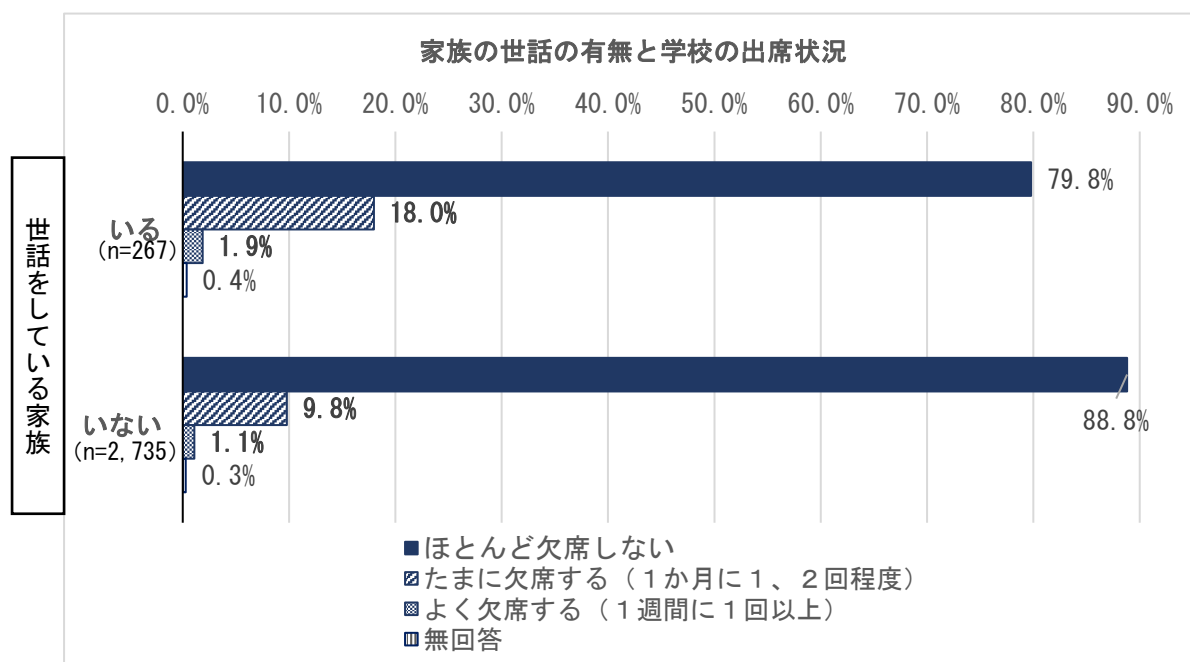
世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

区分	回答数（n＝）	学校に行きたくても行けない	早退してしまう	どうしても学校を遅刻・宿題をする時間や勉強する時間がとれない	睡眠が十分に取れない	友達と遊ぶことができない	進路の変更を考えざるを得ない	自分の時間が取れない	特にない	無回答
小学生 (5.6 年)	128	1 人 0.8%	1 人 0.8%	5 人 3.9%	6 人 4.7%	6 人 4.7%	3 人 2.3%	15 人 11.7%	76 人 59.4%	31 人 24.2%
中学生 (全学年)	139	0 人 0%	0 人 0%	5 人 3.6%	3 人 2.2%	4 人 2.9%	0 人 0%	10 人 7.2%	89 人 64.0%	36 人 25.9%
全体	267	1 人 0.4%	1 人 0.4%	10 人 3.7%	9 人 3.4%	10 人 3.7%	3 人 1.1%	25 人 9.4%	165 人 61.8%	67 人 25.1%

(2) 世達の有無による様々な影響

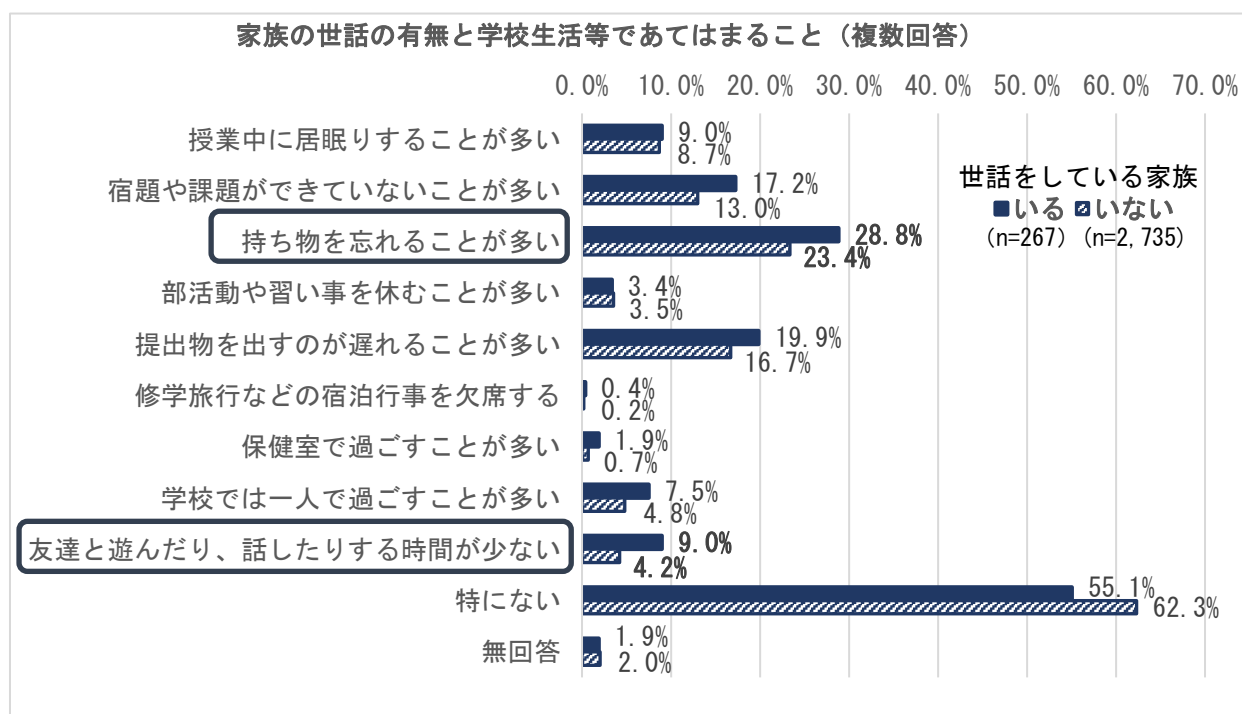
① 学校への出席状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて「たまに欠席する（1 か月に 1、2 回程度）」「よく欠席する（1 週間に 1 回以上）」の割合が高くなっている。



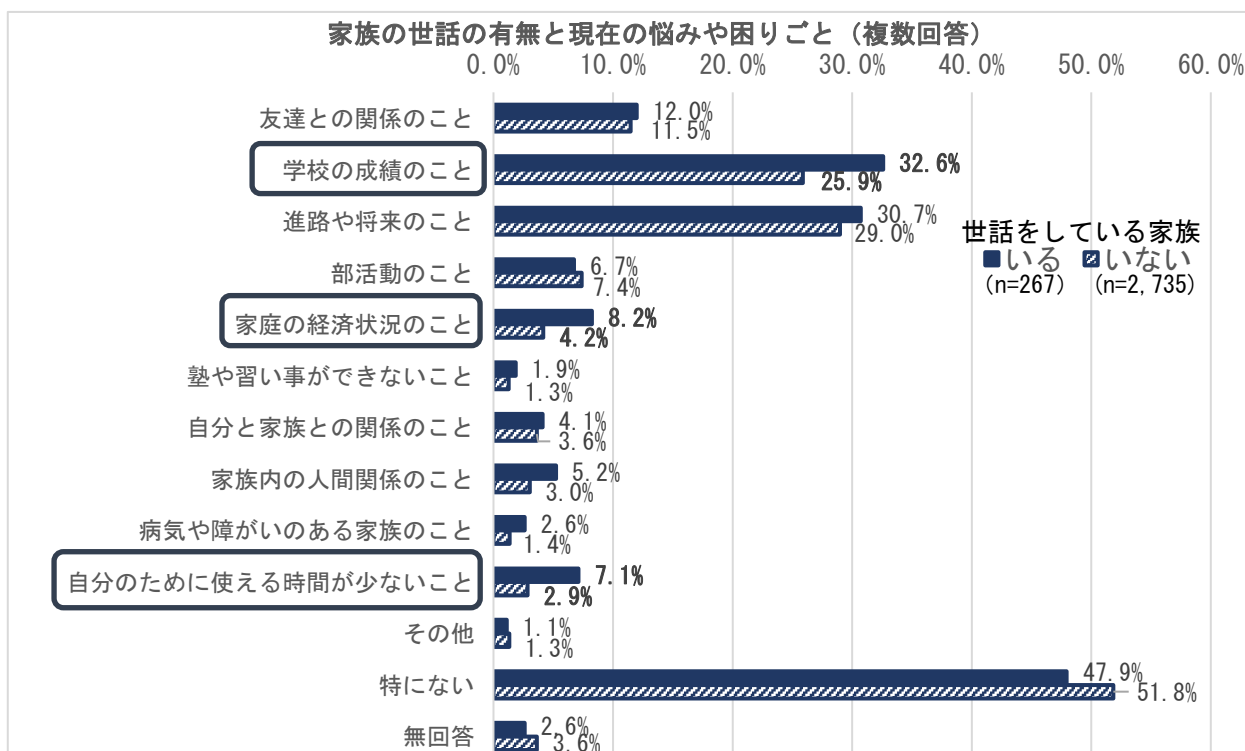
② 学校生活での状況

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて全体的に割合が高い傾向にあるが、特に「持ち物を忘れることが多い」、「友達と遊んだり、話したりする時間が少ない」の割合の差が大きくなっている。



③ 現在の悩みや困りごと

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて全体的に割合が高い傾向にあるが、特に「学校の成績のこと」、「自分のために使える時間が少ないこと」、「家庭の経済状況のこと」の割合の差が大きくなっている。

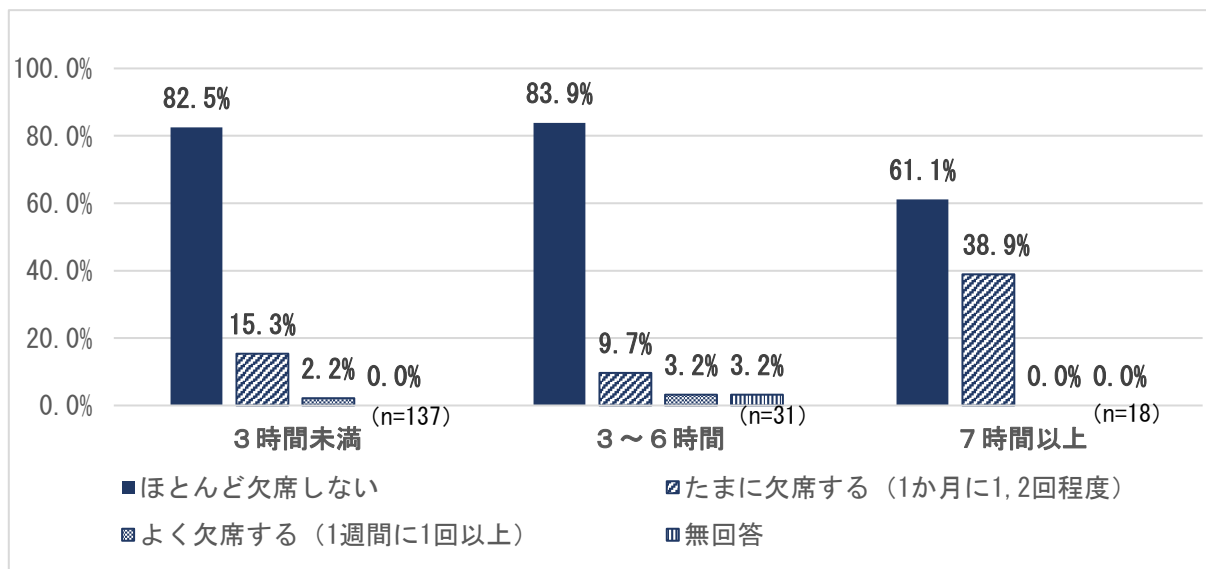


(3) 1日あたりの世話の時間数による影響

① 学校への出席状況

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、3時間未満や3～6時間に比べて「たまに欠席する（1か月に1、2回程度）」の割合が38.9%とかなり高くなっている。

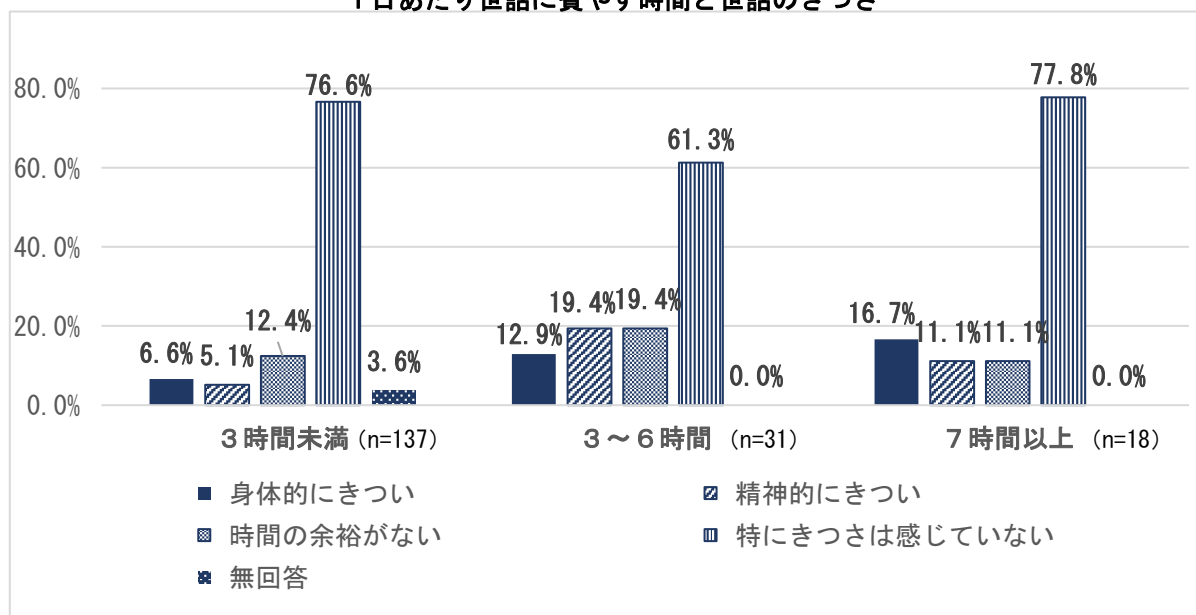
1日あたり世話に費やす時間と欠席の状況



② 世話をすることに感じるきつさ

世話に費やす時間が1日3～6時間の場合、「身体的にきつい」、「精神的にきつい」、「時間の余裕がない」のすべてにおいて、3時間未満に比べて割合が高くなっている。7時間以上の場合も「身体的にきつい」、「精神的にきつい」の割合が3時間未満に比べて高くなっている。

1日あたり世話に費やす時間と世話のきつさ



(4) 家族構成による世話の状況の違い

① 世話の有無

世話をしている家族がいる「二世世代世帯」や「ひとり親家庭」では、いない場合に比べて割合が高くなっている。

区 分		回答数 (n=)	二世代 世帯	三世代 世帯	ひとり 親家庭	その他 世帯	無回答
世話をしている家族	い る	267	162 人 60.7%	67 人 25.1%	38 人 14.2%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
	い ない	2,735	1,584 人 57.9%	784 人 28.7%	350 人 12.8%	10 人 0.4%	7 人 0.3%

② 世話の内容

すべての家族構成において、世話の内容は「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」や「そばで見守る」が高くなっている。また、ひとり親家庭では、「家事」の割合が他の家族構成に比べてかなり高くなっている。

世話の内容（複数回答）

(%)

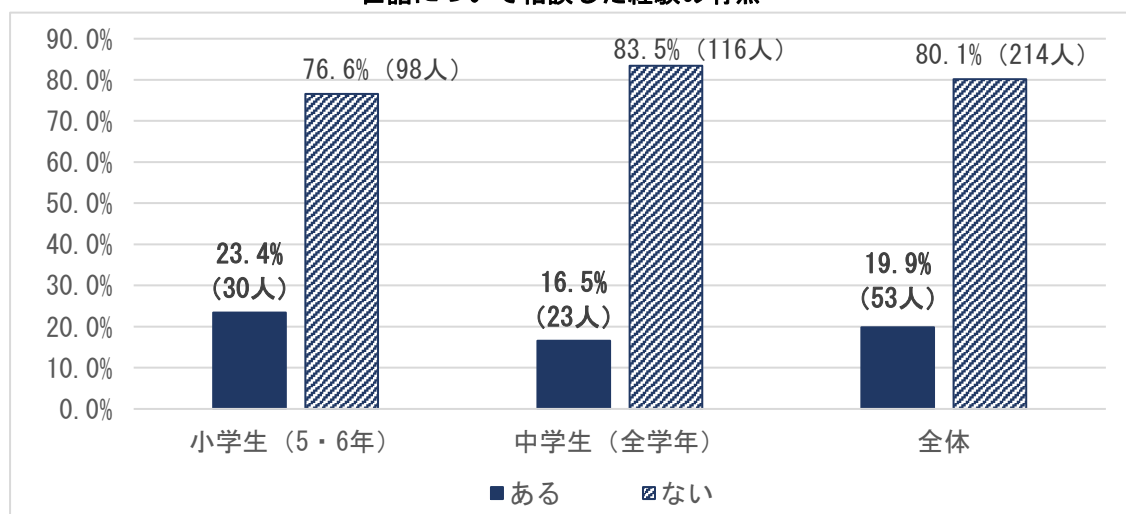
区 分	回答数 (n=)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	お風呂やトイレの世話	きょうだいの世話や保育所等への送迎	買い物や散歩に一緒に行く	病院へ一緒に行く	愚痴を聞いたり、話し相手になる	そばで見守る	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
二世代世帯	162	38.3	21.6	8.6	17.9	4.3	11.7	32.1	0.6	3.1	0.6	1.9	29.0
三世代世帯	67	26.9	9.0	9.0	22.4	6.0	9.0	34.3	0.0	4.5	0.0	6.0	25.4
ひとり親家庭	38	50.0	15.8	5.3	15.8	0.0	13.2	15.8	0.0	5.3	2.6	0.0	28.9

4 相談について

(1) 世話についての相談の有無

世話をしている家族がいると回答した人が、世話の悩み等を誰かに相談したことがあるかについては、「ある」が約2割、「ない」が約8割となっている。また、相談したことがある割合は小学生が23.4%であり、中学生16.5%より高い割合となっている。

世話について相談した経験の有無



(2) 世話について相談したことがない理由

世話をしている家族がいると回答した人が、世話について相談したことがない理由については、「誰かに相談するほどの悩みではない」が全体で 57.9%と最も高く、次いで「相談しても状況が変わると思わない」が 13.6%、「家族以外の人に相談するような悩みではない」が 11.2%となっている。

世話について相談したことがない理由（複数回答）

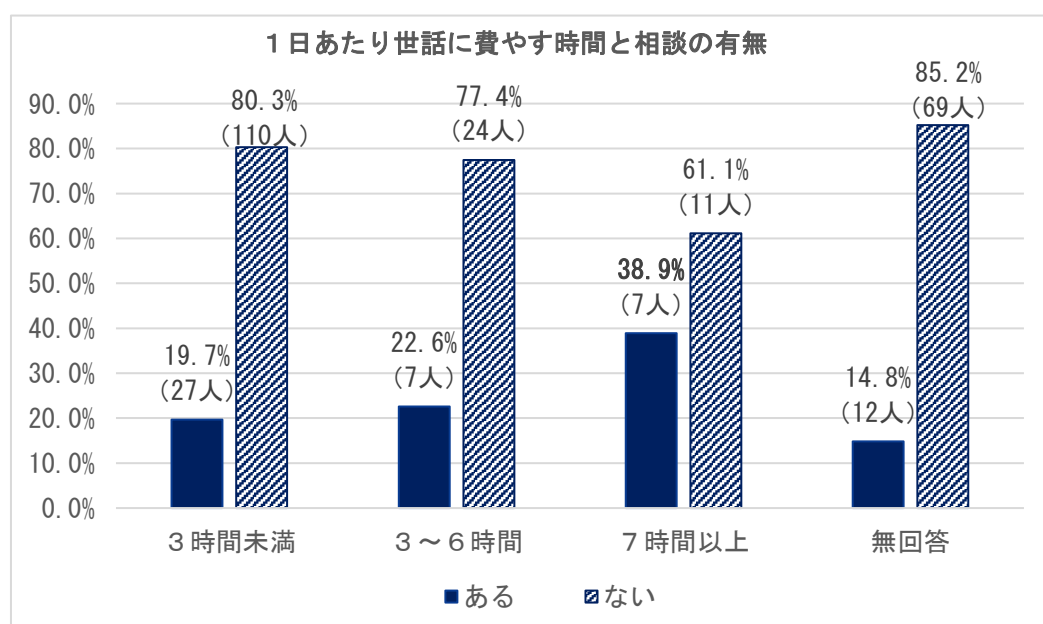
(%)

区分	回答数(n)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談していいのかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことを話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他	無回答
小学生(5.6年)	98	56.1	15.3	6.1	0.0	4.1	7.1	5.1	19.4	4.1	15.3
中学生(全学年)	116	59.5	7.8	5.2	1.7	6.0	6.0	4.3	8.6	2.6	25.9
全 体	214	57.9	11.2	5.6	0.9	5.1	6.5	4.7	13.6	3.3	21.0

(3) 世화에費やす時間の違いによる相談状況

① 相談の有無

世화에費やす時間数ごとに世話についての相談の有無をみると、時間が増えるほどに、相談したことが「ある」割合が高くなり、1日7時間以上では 38.9%となっている。



② 世話について相談したことがない理由 ※相談したことがないと回答した人

世話について相談したことがない理由を世話に費やす時間数ごとにみると、どの時間数も「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。また、1日3時間以上になると、3時間未満に比べて、「相談しても状況が変わると思わない」、「家族のことを話しにくい」、「家族のことを知られたくない」などの割合が高くなっている。

世話に費やす時間と相談したことがない理由（複数回答）

(%)

区分	回答数(n)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するようない	誰に相談していいのかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことを話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他	無回答
3時間未満	110	70.9	11.8	4.5	0.9	4.5	5.5	3.6	14.5	1.8	6.4
3～6時間	24	45.8	16.7	20.8	0.0	25.0	25.0	20.8	25.0	4.2	16.7
7時間以上	11	72.7	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	27.3	0.0	9.1
無回答	69	39.1	8.7	2.9	1.4	0.0	1.4	0.0	5.8	5.8	47.8

(4) 希望する相談方法

世話をしている家族がいると回答した人が、どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいかについては、「特に必要ない」が53.2%と最も高くなっているが、その他では、「直接会って」が小中学生ともに高い。また、中学生では、「SNS（LINEなど）」や「電子メール」を希望する割合が小学生より高い傾向にある。

世話の悩み等について希望する相談方法

(%)

区分	回答数(n)	直接会って	電話	SNS (LINEなど)	電子メール	その他	特に必要ない	無回答
小学生(5.6年)	128	28.9	3.9	4.7	0.8	0.8	55.5	5.5
中学生(全学年)	139	16.5	2.2	11.5	2.2	0.0	51.1	16.5
全 体	267	22.5	3.0	8.2	1.5	0.4	53.2	11.2

5 周囲に期待する必要な支援

世話をしている家族がいると回答した人の、学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援については、「特にない」が全体で62.2%と最も高くなっているが、その他では、小学生では「自由に使える時間がほしい」が14.1%と高く、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が10.9%となっている。中学生では、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が7.9%と高く、次いで「自由に使える時間がほしい」が6.5%となっている。

学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援（複数回答）（%）

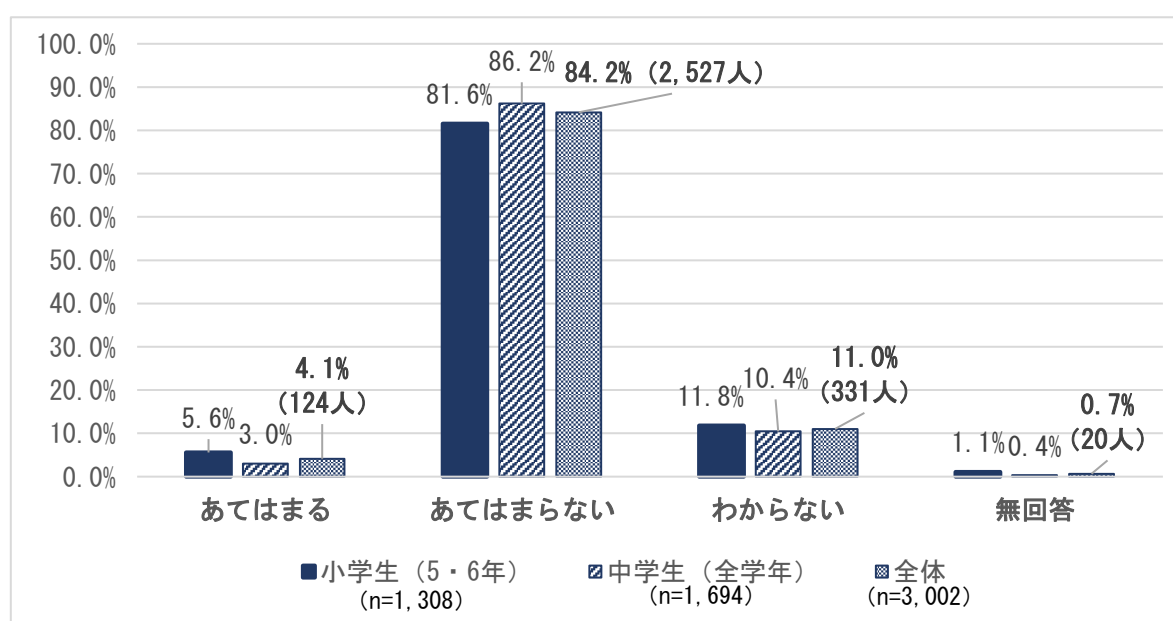
区分	回答数（n）	話を聞いてほしい	自分のいまの状況について相談	家族のお世話について相談 にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分のしていることを誰かに代わってほしい	自分のしていることを手伝ってほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学習のサポート	学校の勉強や受験勉強など	家族への経済的支援	その他	特にない	無回答
小学生（5.6年）	128	10.9	1.6	1.6	1.6	6.3	14.1	2.3	7.0	3.9	0.8	66.4	9.4		
中学生（全学年）	139	4.3	0.0	1.4	0.7	0.7	6.5	5.8	7.9	1.4	0.0	58.3	24.5		
全 体	267	7.5	0.7	1.5	1.1	3.4	10.1	4.1	7.5	2.6	0.4	62.2	17.2		

6 ヤングケアラーについて

（1）ヤングケアラーであることの自覚

自分自身がヤングケアラーにあてはまるかどうかについては、「あてはまる」と自覚している割合が全体で4.1%（小学生5.6%、中学生3.0%）となっている。また、「わからない」と回答する割合は全体で11%（小学生11.8%、中学生10.4%）となっている。

自分はヤングケアラーにあてはまると思うか



世話をしている家族の有無別でみると、家族の世話をしていると回答した人のうち、13.5%が「ヤングケアラーにあてはまる」と自覚している一方で、「あてはまらない」が52.1%、「わからない」が31.5%となっている。

また、家族の世話をしていないと回答した人のうち、3.2%が「ヤングケアラーにあてはまる」と回答しており、その割合は小学生が中学生に比べて高くなっている。

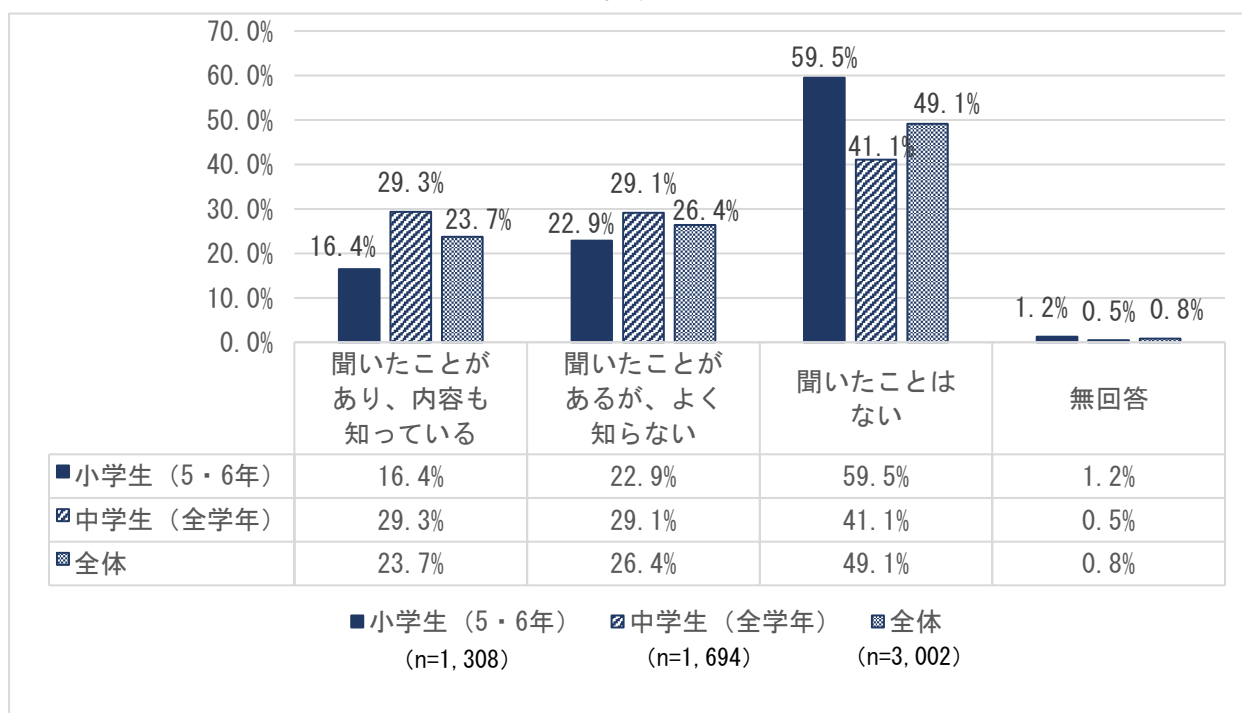
区 分			回答数 (n=)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
世話をしている家族	い る	小学生 (5・6年)	128	18人 14.1%	65人 50.8%	40人 31.3%	5人 3.9%
		中学生 (全学年)	139	18人 12.9%	74人 53.2%	44人 31.7%	3人 2.2%
		計	267	36人 13.5%	139人 52.1%	84人 31.5%	8人 3.0%
	いない	小学生 (5・6年)	1,180	55人 4.7%	1,002人 84.9%	114人 9.7%	9人 0.8%
		中学生 (全学年)	1,555	33人 2.1%	1,386人 89.1%	133人 8.6%	3人 0.2%
		計	2,735	88人 3.2%	2,388人 87.3%	247人 9.0%	12人 0.4%

(2) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかについては、「聞いたことはない」が全体で49.1%（小学生59.5%、中学生41.1%）となっており、特に小学生が高い割合となっている。

一方で、「聞いたことがあり、内容も知っている」との回答は全体で23.7%（小学生16.4%、中学生29.3%）となっており、ヤングケアラーの認知度は中学生の方が高い傾向にある。

ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるか



家族の世話をしていないと回答しながら「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した人の87.5%は、ヤングケアラーのことを「聞いたことがあるが、よく知らない」「聞いたことはない」との認知度である。

また、家族の世話をしていると回答した人が「ヤングケアラーにあてはまる」と自覚している場合でも、94.4%は上記と同様の認知度である。

家族の世話の有無別にみるヤングケアラーの自覚と認知度

区 分			回答数 (n=)	聞いたことが あり、内容も 知っている	聞いたことが あるが、よく 知らない	聞いたことは ない
世 話 家 族 な し	ヤ ン グ ケ ア ラ ー に あ て は ま る	小学生 (5・6年)	55	9.1%	23.6%	67.3%
		中学生 (全学年)	33	18.2%	42.4%	39.4%
		全体	88	12.5%	30.7%	56.8%
世 話 家 族 あ り		小学生 (5・6年)	18	5.6%	22.2%	72.2%
		中学生 (全学年)	18	5.6%	22.2%	72.2%
		全体	36	5.6%	22.2%	72.2%

Ⅲ 考察（総括）

1 家庭内で世話をしている家族の状況について

世話をしている家族がいるかどうかについては、全体で8.9%（小学5.6年生9.8%、中学生8.2%）が「いる」との回答であった。

全国と比較すると、2020年度に実施された全国調査では5.7%（中学2年生）、2021年度では6.5%（小学6年生）となっており、全国よりも高い傾向にある。

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が41.9%と最も高く、世話が必要な理由としては「幼い」が29.6%と最も高かったことから、年下のきょうだいの世話をしている人が大半を占めていると思われる。

2 世話の内容等について

行っている世話の内容は、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が37.1%と最も高く、次に「そばで見守る」が30.3%であった。世話の頻度では、「ほぼ毎日」が29.2%と最も高く、世話に費やす時間は「1時間」が37.8%と最も高かったことから、毎日1時間程度の家事や見守りの世話をしている人が多いことがうかがえる。

また、世話に費やす時間が増えるほどに該当する割合は低くなる傾向にあるが、「7時間以上」の割合のみ6.7%と高く、世話の内容をみると、「そばで見守る」や「買い物や散歩に一緒に行く」の割合が高いことから、長時間の世話をしていると感じている人が一定数いることが分かった。

家庭内での役割として家族のお世話や家事等をお手伝いすることは、思いやりや責任感を育む良い機会となるが、子どもの年齢や成熟度に合わない重すぎる責任や作業は、子ども自身の心身の健康や発達、学習面等に影響を及ぼす恐れがある。

お手伝い程度か、ヤングケアラーに該当するのか、本人の受け止め方によるところもあるが、この度のアンケートで本人の意識付けのきっかけとなったと考えられる。

3 世話による影響

家族の世話をしている影響として、「特にない」と回答している人が多くを占めるものの、「自分の時間が取れない」と感じている人が9.4%あった。学校生活においては、世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて欠席する割合が高いほか、忘れ物や提出物の遅れ、宿題や課題ができていないことなどが多い傾向にある。さらに、現在の悩みや困りごとでは、世話をしている家族がいる場合は、学校の成績のことや自分のために使える時間が少ないこと、家庭の経済状況のことなどで悩んでいる割合が高く、世話をしている家族がいることによって学校生活や日常生活において何らかの支障が生じている傾向にある。

世話に費やす時間による影響は、1日7時間以上の場合、学校を欠席する割合が高い傾向にあるほか、世話をすることに感じるきつさでは、1日3時間以上になると、3時間未満に比べて身体的、精神的なきつさや時間の余裕のなさを感じている割合が高かった。

家族構成による世話の状況については、二世帯世帯やひとり親家庭において、世話をしている家

族のいる割合が高かった。特に、ひとり親家庭では、世話の内容として家事をしている割合が他の家族構成に比べてかなり高くなっており、世話の担い手が少ない中、必然的に家事を負担せざるを得ない状況がうかがえる。

4 相談について

世話をしている家族がいると回答した人の約8割は、世話の悩み等について誰にも相談したことがなく、その理由としては「誰かに相談するほどの悩みではない」との回答が最も多かった。また、世話に費やす時間が1日3時間以上になると、3時間未満に比べて「相談しても状況が変わるとは思わない」「家族のことを知られたくない」などの理由も多く、相談することへの諦めや抵抗感があることがうかがえる。

一方、相談したことがある約2割については、世話に費やす時間が増えるほどに相談する割合が高くなり、1日7時間以上では、約4割に相談の経験があった。

希望する相談方法については、「特に必要ない」が53.2%と最も高く、相談を必要としていない人が多くを占めているが、その他では「直接会って」を希望する割合が小中学生ともに高く、さらに中学生では、「SNS（LINE など）」や「電子メール」を希望する割合が小学生より高い傾向にあり、多様な相談体制が求められている。

家庭内のことで問題が表出しにくく、子ども自身がやりがいを感じていることもあり、今回のアンケートで相談につながらなかった子どものために、今後、こども支援センターにヤングケアラー相談窓口を設置し周知するとともに、ケースによっては要対協の関係機関による支援体制を活用し、不適切な養育が継続しないよう子ども自身の意見を聞きながら対応する必要があると考える。

5 周囲に期待する必要な支援

世話をしている家族がいると回答した人が周囲に期待する支援については、「特にない」が62.2%と最も高いが、その他では「自由に使える時間がほしい」が全体で10.1%となっている。さらに、小学生では「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、中学生では「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」の支援を必要とする割合が高く、年齢等により希望する支援内容は異なる傾向にある。

6 ヤングケアラーについて

自分自身がヤングケアラーに「あてはまる」と自覚している割合は4.1%となっているが、「わからない」との回答も11%あり、ヤングケアラーに「あてはまらない」と言い切れない人が一定数いることが分かった。

ヤングケアラーという言葉の認知度については、「聞いたことはない」が49.1%と約5割で、特に小学生が高い割合となっている。

また、世話をしている家族がいないと回答しながら、ヤングケアラーに「あてはまる」と回答している場合や、世話をしている家族がいると回答した人がヤングケアラーに「あてはまる」と自覚している場合でも、その約9割前後がヤングケアラーのことを「聞いたことがあるが、よく知らない」

「聞いたことはない」との認識であった。

ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容もよく知っている」割合は 23.7% しかなく、ヤングケアラーの概念を正しく理解することが気づきや早期発見につながることから、子どもが理解しやすい形で周知を行うことが必要である。

さらに、教育・医療・福祉・介護などの関係機関に対しヤングケアラーの正しい概念を周知するとともに、保護者への啓発も行い、ヤングケアラーの認知度の向上を目指していく。

IV 単純集計結果

1 基本情報

(1) 性別

(上段：人、下段：%)

区分	調査数 (n=)	男	女	回答しない
小学生 (5・6年)	1,308	647 49.5	634 48.5	27 2.1
中学生 (全学年)	1,694	804 47.5	842 49.7	48 2.8
全体	3,002	1,451 48.3	1,476 49.2	75 2.5

(2) 同居家族（複数回答）

同居家族は、「母」が97.9%と最も高く、次いで「父」、「祖母」となっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n=)	母	父	祖母	祖父	姉	兄	妹	弟	その他	無回答
小学生 (5・6年)	1,308	1,283 98.1	1,146 87.6	424 32.4	323 24.7	408 31.2	408 31.2	386 29.5	395 30.2	32 2.4	5 0.4
中学生 (全学年)	1,694	1,657 97.8	1,495 88.3	518 30.6	374 22.1	443 26.2	433 25.6	498 29.4	519 30.6	42 2.5	2 0.1
全体	3,002	2,940 97.9	2,641 88.0	942 31.4	697 23.2	851 28.3	841 28.0	884 29.4	914 30.4	74 2.5	7 0.2

(3) 健康状態

健康状態は、「よい」が57.2%と最も高く、次いで「まあよい」、「ふつう」となっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n=)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
小学生 (5・6年)	1,308	807 61.7	263 20.1	194 14.8	35 2.7	4 0.3	5 0.4
中学生 (全学年)	1,694	909 53.7	415 24.5	306 18.1	54 3.2	5 0.3	5 0.3
全体	3,002	1,716 57.2	678 22.6	500 16.7	89 3.0	9 0.3	10 0.3

2 普段の生活

(1) 学校への通学状況：欠席

学校への通学状況は、「ほとんど欠席しない」が88%と最も高い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する (1か月に1、2回程度)	よく 欠席する (1週間に1回以上)	無 回 答
小学生 (5・6年)	1,308	1,129 86.3	162 12.4	16 1.2	1 0.1
中学生 (全学年)	1,694	1,513 89.3	154 9.1	19 1.1	8 0.5
全体	3,002	2,642 88.0	316 10.5	35 1.2	9 0.3

(2) 学校への通学状況：遅刻

遅刻については、「ほとんどしない」が91.7%と最も高い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	ほとんど しない	たまに 遅刻する (1か月に1、2回程度)	よく 遅刻する (1週間に1回以上)	無 回 答
小学生 (5・6年)	1,308	1,196 91.4	72 5.5	31 2.4	9 0.7
中学生 (全学年)	1,694	1,558 92.0	98 5.8	31 1.8	7 0.4
全体	3,002	2,754 91.7	170 5.7	62 2.1	16 0.5

(3) 学校への通学状況：早退

早退については、「ほとんどしない」が94.7%と最も高い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	ほとんど しない	たまに早退する (1か月に1、2回程度)	よく早退する (1週間に1回以上)	無回答
小学生 (5・6年)	1,308	1,232 94.2	71 5.4	2 0.2	3 0.2
中学生 (全学年)	1,694	1,612 95.2	67 4.0	7 0.4	8 0.5
全体	3,002	2,844 94.7	138 4.6	9 0.3	11 0.4

(4) 習い事や部活動の状況

習い事や部活動への参加状況については、「している」が81.3%と最も高いが、小学生では「している」の割合が中学生より少し低い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	している	していない	無回答
小学生 (5・6年)	1,308	973 74.4	327 25.0	8 0.6
中学生 (全学年)	1,694	1,468 86.7	218 12.9	8 0.5
全体	3,002	2,441 81.3	545 18.2	16 0.5

(5) 普段の学校生活等であてはまること（複数回答）

普段の学校生活等であてはまることについては、「特にない」が最も高いが、その他では、「持ち物を忘れることが多い」や「提出物を出すのが遅れることが多い」が高い傾向にある。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数（n）	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物を忘れることが多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い
小学生 （５・６年）	1,308	54 4.1	137 10.5	286 21.9	22 1.7	166 12.7	4 0.3	13 1.0	59 4.5
中学生 （全学年）	1,694	208 12.3	265 15.6	430 25.4	84 5.0	344 20.3	2 0.1	11 0.6	89 5.3
全体	3,002	262 8.7	402 13.4	716 23.9	106 3.5	510 17.0	6 0.2	24 0.8	148 4.9
区 分	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答						
小学生 （５・６年）	62 4.7	893 68.3	24 1.8						
中学生 （全学年）	81 4.8	958 56.6	37 2.2						
全体	143 4.8	1,851 61.7	61 2.0						

(6) 現在の悩みや困りごと（複数回答）

現在の悩みや困りごとについては、小学生は「特にない」が 67.8%と最も高いが、中学生は「進路や将来のこと」が 40.5%と最も高く、次いで「学校の成績のこと」が 39.4%となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n)	友達との関係のこと	学校の成績のこと	進路や将来のこと	部活動のこと	家庭の経済状況のこと	塾や習い事ができないこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）
小学生 (5・6 年)	1,308	129 9.9	127 9.7	189 14.4	18 1.4	67 5.1	15 1.1	53 4.1	41 3.1
中学生 (全学年)	1,694	217 12.8	668 39.4	686 40.5	202 11.9	69 4.1	25 1.5	57 3.4	56 3.3
全体	3,002	346 11.5	795 26.5	875 29.1	220 7.3	136 4.5	40 1.3	110 3.7	97 3.2
区 分	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答				
小学生 (5・6 年)	21 1.6	26 2.0	18 1.4	887 67.8	46 3.5				
中学生 (全学年)	23 1.4	71 4.2	21 1.2	659 38.9	60 3.5				
全体	44 1.5	97 3.2	39 1.3	1,546 51.5	106 3.5				

(7) 悩みや困りごとの相談相手や話を聞いてくれる人の有無（複数回答）

悩みや困りごとの相談相手や話を聞いてくれる人の有無については、「いる」が 73.2%と最も高い。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n)	いる	いない	話 は し た く な い	い る け ど 相 談 や	無 回 答
小学生 (5・6年)	1,308	925 70.7	98 7.5	276 21.1	9 0.7	
中学生 (全学年)	1,694	1,271 75.0	69 4.1	340 20.1	14 0.8	
全体	3,002	2,196 73.2	167 5.6	616 20.5	23 0.8	

3 家庭や家族のこと

(1) 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、8.9%（267人）が「いる」との回答であった。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n=)	いる	いない
小学生 (5・6年)	1,308	128 9.8	1,180 90.2
中学生 (全学年)	1,694	139 8.2	1,555 91.8
全体	3,002	267 8.9	2,735 91.1

(2) 世話を必要としている家族（複数回答）

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が41.9%と最も高く、特に小学生は、中学生に比べて高い割合となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n=)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学生 (5・6年)	128	47 36.7	31 24.2	11 8.6	8 6.3	62 48.4	1 0.8	28 21.9
中学生 (全学年)	139	31 22.3	17 12.2	25 18.0	12 8.6	50 36.0	1 0.7	42 30.2
全体	267	78 29.2	48 18.0	36 13.5	20 7.5	112 41.9	2 0.7	70 26.2

(3) 世話を必要としている家族の状況（複数回答）

世話を必要としている家族の状況については、「幼い」が29.6%と最も高い。その他では、中学生は「高齢（65歳以上）」が16.5%と小学生より高い割合となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n=)	高齢 (65歳以上)	幼い	認知症	要介護 (介護が必要な状態)	障がい (身体及び精神)	依存症 (お酒やギャンブル等)	日本語が苦手	分からない	その他	無回答
小学生 (5・6年)	128	7 5.5	40 31.3	0 0.0	4 3.1	0 0.0	0 0.0	1 0.8	46 35.9	1 0.8	34 26.6
中学生 (全学年)	139	23 16.5	39 28.1	11 7.9	10 7.2	11 7.9	1 0.7	5 3.6	31 22.3	1 0.7	42 30.2
全体	267	30 11.2	79 29.6	11 4.1	14 5.2	11 4.1	1 0.4	6 2.2	77 28.8	2 0.7	76 28.5

(4) 世話の内容（複数回答）

世話の内容については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が37.1%と最も高く、次いで「そばで見守る」が30.3%となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数（nⅡ）	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	お風呂やトイレの世話	きょうだいの世話や保育所等への送り迎え	買い物や散歩と一緒に行く	病院へ一緒に行く	愚痴を聞いたり、話し相手になる	そばで見守る	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
小学生（5・6年）	128	50 39.1	25 19.5	10 7.8	26 20.3	5 3.9	11 8.6	36 28.1	1 0.8	6 4.7	0 0.0	6 4.7	35 27.3
中学生（全学年）	139	49 35.3	22 15.8	12 8.6	24 17.3	6 4.3	19 13.7	45 32.4	0 0.0	4 2.9	2 1.4	1 0.7	40 28.8
全体	267	99 37.1	47 17.6	22 8.2	50 18.7	11 4.1	30 11.2	81 30.3	1 0.4	10 3.7	2 0.7	7 2.6	75 28.1

(5) 世話を一緒にしている人（複数回答）

世話を一緒にしている人については、「母親」が42.3%と最も高く、次いで「きょうだい」が31.8%、「父親」が31.5%となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数（nⅡ）	自分のみ	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	福祉サービス（ヘルパーなど）	親せきの人	その他	無回答
小学生（5・6年）	128	20 15.6	62 48.4	40 31.3	14 10.9	9 7.0	39 30.5	2 1.6	7 5.5	0 0.0	34 26.6
中学生（全学年）	139	17 12.2	51 36.7	44 31.7	17 12.2	12 8.6	46 33.1	8 5.8	4 2.9	2 1.4	40 28.8
全体	267	37 13.9	113 42.3	84 31.5	31 11.6	21 7.9	85 31.8	10 3.7	11 4.1	2 0.7	74 27.7

(6) 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、「6才～9才頃」、「10才～12才頃」がともに28.8%と最も高い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	小学校入学前	6才～9才頃	10才～12才頃	13才以上	無回答
小学生 (5・6年)	128	21 16.4	44 34.4	30 23.4	0 0.0	33 25.8
中学生 (全学年)	139	5 3.6	33 23.7	47 33.8	11 7.9	43 30.9
全体	267	26 9.7	77 28.8	77 28.8	11 4.1	76 28.5

(7) 世話をしている日数

世話をしている日数については、「ほぼ毎日」が29.2%と最も高い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	分からない	無回答
小学生 (5・6年)	128	39 30.5	15 11.7	22 17.2	4 3.1	20 15.6	28 21.9
中学生 (全学年)	139	39 28.1	15 10.8	20 14.4	13 9.4	15 10.8	37 26.6
全体	267	78 29.2	30 11.2	42 15.7	17 6.4	35 13.1	65 24.3

(8) 世話に費やす時間

1日あたりの世話に費やす時間については、「1時間」が37.8%と最も高く、次いで「2時間」が13.5%となっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間以上	無回答
小学生 (5・6年)	128	49 38.3	18 14.1	11 8.6	0 0.0	2 1.6	2 1.6	9 7.0	37 28.9
中学生 (全学年)	139	52 37.4	18 12.9	13 9.4	1 0.7	2 1.4	0 0.0	9 6.5	44 31.7
全体	267	101 37.8	36 13.5	24 9.0	1 0.4	4 1.5	2 0.7	18 6.7	81 30.3

(9) 世話をしているために、やりたくてもできないこと（複数回答）

世話をしているために、やりたくてもできないことについては、「特にない」が最も高いが、その他では、「自分の時間が取れない」が高くなっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	学校を遅刻や早退してしまう	宿題など勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友達と遊ぶことができない	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	特にない	無回答
小学生 (5・6年)	128	1 0.8	1 0.8	5 3.9	6 4.7	6 4.7	3 2.3	15 11.7	76 59.4	31 24.2
中学生 (全学年)	139	0 0.0	0 0.0	5 3.6	3 2.2	4 2.9	0 0.0	10 7.2	89 64.0	36 25.9
全体	267	1 0.4	1 0.4	10 3.7	9 3.4	10 3.7	3 1.1	25 9.4	165 61.8	67 25.1

(10) 世話のきつさ（複数回答）

世話をすることに感じているきつさについては、「特にきつさは感じていない」が最も高いが、その他では、「時間の余裕がない」が高くなっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n=)	身体的にきつい	精神的にきつい	時間の余裕がない	特にきつさは感じていない	無回答
小学生 (5・6年)	128	15 11.7	13 10.2	15 11.7	64 50.0	33 25.8
中学生 (全学年)	139	4 2.9	5 3.6	10 7.2	82 59.0	41 29.5
全体	267	19 7.1	18 6.7	25 9.4	146 54.7	74 27.7

(11) 世話について相談した経験

世話について相談した経験は、「ある」が19.9％、「ない」が80.1％となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n=)	ある	ない
小学生 (5・6年)	128	30 23.4	98 76.6
中学生 (全学年)	139	23 16.5	116 83.5
全体	267	53 19.9	214 80.1

(12) 世話についての相談相手（複数回答） ※相談したことがあると回答した人

世話についての相談相手は、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が 73.6%と最も高く、次いで「友達」が 43.4%となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n)	家族（父、母、祖父、 祖母、きょうだい）	親せき （おじ、おばなど）	友達	学校の先生	保健室の先生	医師や看護師	無回答
小学生 (5・6年)	30	24 80.0	2 6.7	16 53.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7
中学生 (全学年)	23	15 65.2	1 4.3	7 30.4	3 13.0	1 4.3	1 4.3	2 8.7
全体	53	39 73.6	3 5.7	23 43.4	3 5.7	1 1.9	1 1.9	4 7.5

(13) 世話について相談したことがない理由（複数回答） ※相談したことがないと回答した人

世話について相談したことがないと回答した人の理由については、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 57.9%で最も高く、その他では、「相談しても状況が変わると思わない」が 13.6%、「家族以外の人に相談するような悩みではない」が 11.2%となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談していいのか分からない	相談できる人が身近にいない	家族のことを話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他	無回答
小学生 (5・6年)	98	55 56.1	15 15.3	6 6.1	0 0.0	4 4.1	7 7.1	5 5.1	19 19.4	4 4.1	15 15.3
中学生 (全学年)	116	69 59.5	9 7.8	6 5.2	2 1.7	7 6.0	7 6.0	5 4.3	10 8.6	3 2.6	30 25.9
全体	214	124 57.9	24 11.2	12 5.6	2 0.9	11 5.1	14 6.5	10 4.7	29 13.6	7 3.3	45 21.0

(14) 世話について話を聞いてくれる人の有無 ※相談したことがないと回答した人

世話について相談したことがないと回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、「いる」が60.7%、「いない」が25.2%となっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n=)	いる	いない	無回答
小学生 (5・6年)	98	61 62.2	30 30.6	7 7.1
中学生 (全学年)	116	69 59.5	24 20.7	23 19.8
全体	214	130 60.7	54 25.2	30 14.0

(15) 学校や大人に助けてほしいことや必要としている支援

学校や大人に助けてほしいことや必要としている支援については、「特にない」が62.2%と最も高いが、その他では、「自由に使える時間がほしい」が10.1%と高くなっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (n=)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談のってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい	自分のしていることを誰かに代わってほしい	自分のしていることを手伝ってほしい	自由に使える時間がほしい
小学生 (5・6年)	128	14 10.9	2 1.6	2 1.6	2 1.6	8 6.3	18 14.1
中学生 (全学年)	139	6 4.3	0 0.0	2 1.4	1 0.7	1 0.7	9 6.5
全体	267	20 7.5	2 0.7	4 1.5	3 1.1	9 3.4	27 10.1
区 分	進路や就職など将来の相談のってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習サポート	家族への経済的支援	その他	特にない	無回答	
小学生 (5・6年)	3 2.3	9 7.0	5 3.9	1 0.8	85 66.4	12 9.4	
中学生 (全学年)	8 5.8	11 7.9	2 1.4	0 0.0	81 58.3	34 24.5	
全体	11 4.1	20 7.5	7 2.6	1 0.4	166 62.2	46 17.2	

(16) 希望する相談方法（複数回答）

どのような方法で話を聞いたり、相談にのったりしてほしいかについては、「特に必要ない」が53.2%と最も高いが、その他では、「直接会って」が小中学生ともに高い。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n)	直接会って	電話	SNS (LINEなど)	電子メール	その他	特に必要ない	無回答
小学生 (5・6年)	128	37 28.9	5 3.9	6 4.7	1 0.8	1 0.8	71 55.5	7 5.5
中学生 (全学年)	139	23 16.5	3 2.2	16 11.5	3 2.2	0 0.0	71 51.1	23 16.5
全体	267	60 22.5	8 3.0	22 8.2	4 1.5	1 0.4	142 53.2	30 11.2

4 ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーの自覚

自分自身がヤングケアラーにあてはまると思うかについては、「あてはまる」が4.1%、「あてはまらない」が84.2%、「わからない」が11.0%となっている。

（上段：人、下段：％）

区 分	調査数 (n)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
小学生 (5・6年)	1,308	73 5.6	1,067 81.6	154 11.8	14 1.1
中学生 (全学年)	1,694	51 3.0	1,460 86.2	177 10.4	6 0.4
全体	3,002	124 4.1	2,527 84.2	331 11.0	20 0.7

(2) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーという言葉をこれまでに聞いたことがあるかについては、「聞いたことはない」が49.1%と約半数を占めており、特に小学生の割合が高い。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (nⅡ)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことがあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
小学生 (5・6年)	1,308	215 16.4	299 22.9	778 59.5	16 1.2
中学生 (全学年)	1,694	497 29.3	493 29.1	696 41.1	8 0.5
全体	3,002	712 23.7	792 26.4	1,474 49.1	24 0.8

(3) ヤングケアラーを知ったきっかけ

ヤングケアラーについて「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことがあるが、よく知らない」と回答した人に、知ったきっかけを聞いたところ、「テレビや新聞、ラジオ」が71.7%と最も高く、次いで「SNSやインターネット」が29.3%となっている。

(上段：人、下段：%)

区 分	調査数 (nⅡ)	テレビや新聞、 ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、 掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他	無回答
小学生 (5・6年)	514	379 73.7	33 6.4	103 20.0	49 9.5	4 0.8	97 18.9	27 5.3	25 4.9	29 5.6
中学生 (全学年)	990	699 70.6	77 7.8	337 34.0	119 12.0	3 0.3	184 18.6	42 4.2	19 1.9	53 5.4
全体	1,504	1,078 71.7	110 7.3	440 29.3	168 11.2	7 0.5	281 18.7	69 4.6	44 2.9	82 5.5

(4) アンケートの感想など自由記述（一部抜粋）

内 容	学 年
同じ小学生なのに、家事やアルバイトなどをやっている子どもがいることを知り、かわいそうだった。	小学5年生
相談をしたいけれど誰に話せば良いかわからないし、相手がいても勇気がなくてどう話せばいいかわからない。	小学5年生
もう少し社会が手助けをしてもいいんじゃないかと思う。	小学5年生
自分は本当に自分の時間を自分に使っているのかどうか心配になった。	小学5年生
もし自分がヤングケアラーだったとしても自分を助けてくれる人がいると知って、安心しました。	小学6年生
ヤングケアラーのひとが相談できないのはより孤立してしまうと思うので、できたらきいてあげるのがいいと思います。	小学6年生
こうして悩みを抱える方に寄り添ってくれるアンケートを見て、ヤングケアラーの方を減らす方法が気になりました。	小学6年生
もし周りにヤングケアラーの子がいたら気づいてあげて積極的に話しかけたいです。	小学6年生
日常の中でヤングケアラーを見つけるのは難しいこともあるのでこのようなアンケートを実施することはとてもいいと思いました。	中学1年生
もっと学校でのカウンセリングを気軽にできるように、身近になるようにしていただきたいです。	中学1年生
18歳で大人のするような家事をすることは、大変だしその子の自由な時間も少なくなっていくので、誰かボランティアのような人たちで支えていけば良いと思った。	中学1年生
お金をあげたり相談窓口などをつくってほしい。	中学1年生
このアンケートをしたら自分がヤングケアラーかどうかわかっていいと思います。	中学2年生
ヤングケアラーとは何かを知ることができ、このことを地域の人たちに伝えられるといいですね。	中学2年生
ヤングケアラーの人はそのことが嫌じゃないと思っていなければ別に続けたらいいと思う。	中学2年生
もしヤングケアラーの方がいたら、いち早く見つけて、解決して欲しいです。	中学2年生
ヤングケアラーを助ける制度がこの先できていったらいいなと思いました。	中学3年生
ヤングケアラーという言葉は聞いたことがあるけど、実際どういった人のことをヤングケアラーと言うかは知らなかったの、この機会に知ることができて良かったです。	中学3年生
しんどい思いをしている人のケアができる場所が増えたらいいなと思いました。	中学3年生
ヤングケアラーがもっと気軽に相談しやすくなれば良いなと思いました。	中学3年生

(参考) 今回のアンケートにおけるヤングケアラーの定義

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいう。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga